

昔遊びの技を伝授 むかし遊び大会



目的

現代の子ども達は、昔と比べると TV ゲームやスマートフォン等のコンピュータゲームで遊ぶことが多くなってきています。コンピュータゲームでの交流は一方通行になりがちで遊びを通して相手思いやりといった学びの機会が少なくなっていると感じることがあります。世代間の交流、昔遊びの面白さの再発見、遊び技術の伝承を通して、他者との関わり方や思いやりの心を育むことを目的としています。

事業概要

コマ回し、けん玉、羽根つき、竹とんぼ、だるま落としのブースを作って子ども達は好きなブースに行き遊びます。各ブースには、保護者の方や、地域のボランティアの方が付いて、遊び方を教えてあげます。最後は全員での面影ジャンボかるた取りを行います。面影かるたは 90 年代に面影地域と小学校で作成しました。拡大した絵札を用います。子ども達がチームを作り読み札を読み終わると各チーム 1 名ずつ走って絵札を取り合います。毎年盛り上がるイベントの一つです。



成果

参加者 70 名（子ども 49 名／大人 21 名）平成 27 年度。
子ども達は羽根つきを独自のルールで遊んだり、コマ回しを他の友だちに教える姿が見え、他者とのかかわり、思いやりを学ぶよい場所になったと思います。参加していただいた大人が技を披露すると「すごい！教えて！」というような声もきこえ世代間交流もうまくいったと考えます。

所見

大人・保護者の協力が必要不可欠。遊びの行事ではありますが学びの場でもあることを念頭に置いて楽しい時間を共有したいです。

